

地域創生のビジョンについての提言

「3世代育み健やかタウン」から

水俣の新たなイメージへ



平成 29 年 3 月

環境省国立水俣病総合研究センター

本提言は、水俣市との協定に基づき「未来思考のまちづくり」の推進を図るために、地域創生のビジョンについて示している。めざす地域社会像として「3世代育み健やかタウン」を想定し、それを実現させるために「マッチングスポット」の創出及び協働的取組み体制の構築等を図りつつ、10年程先には水俣の新たなイメージを定着させることを意図している。

＜ 提 言 ＞

1. めざす地域社会像

地域創生に向けて、広い意味での「健康」をキーワードに多種多様な交流が市内各所で行われ、市民が、現在の3世代と共に未来の世代をも育む健康なまちづくり（「3世代育み健やかタウン」）を自発的に拡充・深化させ、環境と健康の両面に優れたまちへの歩みを進めている姿をめざす。

2. マッチングスポットの創出

「3世代育み健やかタウン」は、マッチングスポットの創出が要となる。マッチングスポットは、多種多様な交流のために、市内各所に水俣にあるもの（場、しくみ、人）を活かして設け、包括的な暮らし方を含めた健康増進につなげるようにする。

3. 協働的取組み体制の構築

提言の着実な実施のため、水俣市と国立水俣病総合研究センターの協働による推進会議等の立上げや実行計画等の作成、モデル的マッチングスポットの試行、水俣環境アカデミアの活用及びフューチャーセッションの共同開催等を早期に進めることが望まれる。

4. 新たなイメージの定着

市民が自ら「3世代育み健やかタウン」を拡充・深化させて、環境と健康の両面に優れたまちへの歩みを継続し、環境汚染のイメージを変える“カラフルでいきいきとした水俣のイメージ”を創出し、それを国内外に定着させることが重要である。その結果として、誹謗中傷や風評被害の解消にもつながると思われる。

1. めざす地域社会像

地域創生に向けて、広い意味での「健康」をキーワードに多種多様な交流が市内各所で行われ、市民が、現在の3世代と共に未来の世代をも育む健康なまちづくり(「3世代育み健やかタウン」)を自発的に拡充・深化させ、環境と健康の両面に優れたまちへの歩みを進めている姿をめざす。

(1)「3世代育み健やかタウン」へ

水俣市において地域創生を考える場合、水俣病で失われた環境と健康を取り戻し、その大切さを国内外に知らしめることがきわめて重要である。

しかしながら、水俣市では、多世代において健康状態の改善が求められ、生活習慣に起因する疾病に係る日常生活の変容が強く求められる。特に親世代の不適切な生活習慣は、共に生活をする子ども世代に負のスパイラルとなって受け継がれてしまうことから、世代を問わず包括的に健康増進のできる環境が必要である。

そのため、日頃からの交流により、3世代が幸せを実感しながら、みんなの健康(肉体的・精神的・社会的な健康)をより良く育み、未来につないでいくまち(以下「3世代育み健やかタウン」という)づくりが必要である。

(2)めざす地域社会像

めざす地域社会像は、次の3段階で捉えられる。まず、多種多様な交流が日頃から重ねられ、楽しみながら健康を増進し、子どもや親世代が健やかに成長し、高齢者がいきいきと充実した日々を過ごしている姿をめざす。

次に、この取組みを数年間続けることにより、3世代が幸せを実感しながら、みんなの健康をより良く育み、未来につないでいく健やかなまちになっている姿をめざす。

そして、環境汚染の克服に取り組んできたまちにおいて、市民が自発的に世代を超えた健康まちづくりを拡充・深化させ、自ら環境と健康の両面に優れたまちとしての歩みを進めている姿をめざす。

2. マッチングスポットの創出

「3世代育み健やかタウン」は、マッチングスポットの創出が要となる。マッチングスポットは、多種多様な交流のために、市内各所に水俣にあるもの(場、しくみ、人)を活かして設け、包括的な暮らし方を含めた健康増進につなげるようにする。

「3世代育み健やかタウン」を推進する要は、3世代交流の場(以下「マッチングスポット」という)である。水俣にあるもの(場、しくみ、人)を活かした多種多様なスポットが市内の各所に設けられ、曜日や時間、内容が様々に用意され、コンビニエンスストアのように好きな所をいつでも気軽に利用できる場をイメージしている。

マッチングスポットは、日頃から多世代の自発的な交流により、子どもが健やかに成長し、親世代が健康を意識するようになり、高齢者がいきいきと充実できる場であることが必要である。

さらに、マッチングスポットにおける交流が充実することにより、水俣で子育てをしたい人が集い、リタイア後のライフワークにもなり健康寿命の延伸につながることを期待される。

そのため、水俣市による市民へのバックアップ(後押し)として、水俣市の健康増進計画、食育推進計画、ひまわりプラン等に“支えあいの場”として位置づけ、その上で次期総合計画にも実装することにより、様々な側面から総合的に市民を後押しする体制を構築することが望まれる。

3. 協働的取組み体制の構築

提言の着実な実施のため、水俣市と国立水俣病総合研究センターの協働による推進会議等の立上げや実行計画等の作成、モデル的マッチングスポットの試行、水俣環境アカデミアの活用及びフューチャーセッションの共同開催等を早期に進めることが望まれる。

(1) 推進会議等の立上げや実行計画等の作成

本提言を着実に進めるために、水俣市と国立水俣病総合研究センターとの協働的取組みとして、例えば、地域創生ビジョン推進会議の立上げや実行計画等を作成することが必要である。

(2) モデル的なマッチングスポットの試行

水俣市と国立水俣病総合研究センターとの協働的取組みとして、例えば、商店街、山間部、沿岸部等に、マッチングスポットを試行的に設けて、そこで試みと失敗を繰り返しながら次第に見通しを立てて、解決策や適切な方法を見出していくことが望まれる。あるものを活かすことから、ふれあいセンター、村丸ごと生活博物館、湯の鶴温泉保健センターほたるの湯、エコハウス、地域リビング、水俣病情報センター等でのモデル的な試行が考えられる。

(3) 水俣環境アカデミアの活用

水俣環境アカデミアにおける研修等の場を活用してこの取組みを周知し、新たな水俣のイメージとともに持ち帰ってもらうための方策を考えて、試行することが望まれる。

(4) フューチャーセッションの共同開催

上記(1)～(3)を行うにあたり、市民との新たな対話の場(フューチャーセッション)を水俣市と国立水俣病総合研究センターとで共同開催し、多様なアイデアを引き出して活かすことが考えられる。

4. 新たなイメージの定着

市民が自ら「3世代育み健やかタウン」を拡充・深化させて、環境と健康の両面に優れたまちへの歩みを継続し、環境汚染のイメージを変える“カラフルでいきいきとした水俣のイメージ”を創出し、それを国内外に定着させることが重要である。その結果として、誹謗中傷や風評被害の解消にもつながると思われる。

水俣病を教訓としてきた地域に対し、例えば、「水俣病の水俣」といったイメージが今もある。一方で、誹謗中傷や風評被害は未だ解消されていない。

そこで、市民が自ら「3世代育み健やかタウン」を拡充・深化させ、水俣病を教訓としてきた地域に対して、環境と健康の両面に優れたまちとしての歩みを進めているイメージを重ねることが重要である。

例えば、多種多様な交流を地元の中학생や高校生、水俣環境アカデミアに来た大学生等が体験し、自らの言葉で水俣のイメージを語り、国内外に広めることが考えられる。

さらに、市民が自発的な活動を数年間以上継続し、これまでの環境汚染のイメージを変える“カラフルでいきいきとした水俣のイメージ”を創出し、それを国内外に定着させることが重要である。